

サークル部室の解放を我々の手で!

理工学部のあるての学友諸君! とりわけサークルに結果する学友諸君に対し、サークル連絡協議会から以下の問題提議を行なうたい。

全ての学友諸君! 先ず、理工学部の大衆には「ま」と目を向けて見ようではないか。3-4号館がロックアウト、セピア7号館が鉄柵に囲まれ、討論、講義、セピア館等は一切禁止され、授業の研に集中せられている。教授室は「緊急事態だから閉鎖している」という犯罪的な論理を以て、我々の民主的権利を侵奪しようとしている。このサークル活動は禁止しないとするならば、部室を解放せよ。

我々はサークル活動を一個の主体的人間としての観点からとらえ、自己の権利を推進せよといふ必要があるだろう。本来的に、サークル活動とは穿然な能力を兼ねのけ、自己の人間性と自己の主体性を培い、創造的研究活動を行なうべくものである。といふことは、単に趣味的・技術的方面のみを追求するのではなく、社会的存在として、いかに活動し、すべての人民にどの様に還元されるかを追求していくことが重要な問題と見られる。

すなわち、日大斗争を隈取した形ではサークル運動は展開されなかつた。日大斗争の限りの高揚の中からは、真のサークル像を確立させなければならぬ。以上の事を踏まえて見ると、文化・科学・体育部全てのサークルを連帯し、全ての学友の権利として、日大斗争勝利の観点から、主体的なサークル活動を展開していかねばならぬ。このことを確認できるだろう。

我々の新進的サークルを解放し、日大斗争の勝利を主体性、確立の権利として、サークル活動の発展を促す。この部室をとり戻し、全ての学友に解放するといふことが重要である。この部室を解放し、セピア7号館を学生に解放せねば、真のサークルの発展は望めない。この部室をとり戻さなければ、我々学生の自治も守れない。これからの解放運動は、この部室をとり戻し、全ての学友諸君の決起をもつた闘いである。

我々学生は、迅速な提案を以て、全てのサークルと連帯して闘い、自己の手でサークル部室の解放を達成するべきである。

- 1. 3-4号館の鉄柵を除去し、サークル部室を解放せよ
- 2. セピア7号館のロックアウトを解除せよ
- 3. 日大斗争勝利の項目貫徹
- 4. 学友諸君の団結を大粉砕

理工学部サークル連絡協議会